

2016年7月20日 第521号（隔月発行）

アジアの友

The Asia-no Tomo

6-7

JUNE-JULY

2016

**ホルーゲルと穂積文子先生のこと
留学生の部屋探し 今、民間業者の取り組みは**





留学生が神輿を体験！

6月4日（土）、荒川区東共栄町会の天王祭が開催され、やまぶき寮生を中心とした ABK の学生が 30 名以上参加しました。はっぴを着た学生達は地域のみなさんと力を合わせて神輿をかつぎ、「わっしょい」の掛け声と共に元気よく町内をまわり地域行事を盛り上げました。



アジアの友

2016年6・7月号 第521号

目次

	巻頭
2	ホルーゲルと穂積文子先生のこと 小田中 聡樹
	インタビュー
5	留学生の部屋探し 今、民間業者の取り組みは 株式会社エイブルコーポレートサービス 株式会社グローバルトラストネットワークス 株式会社ファインセレクト 株式会社ボーダレス・ジャパン ボーダレスハウス
	私の意見私の体験
23	「日本語観光ガイドから留学生へ」 ポッ・ソヴァンナ ～カンボジア
	連載コラム
26	泰日工業大学 奮闘記（第18回） 「パッタナカーンという所」 池田 隆
28	ABK is My Home 懐かしの来館者
29	インド・チェンナイ同窓会ニュース
30	知友会通信
32	MEMBERS

<表紙写真>

荒川区東共栄町会天王祭で神輿を担ぐ留学生たち

ホルーゲルと穂積文子先生のこと

我が家に似つかわしくないホルーゲルのピアノが一台ある。娘の家にもホルーゲルのアップライト型とグランドピアノの二台ある。これらのピアノは、小野ピアノ（横浜市）から買ったものである。ドイツの檜の木と象牙のキイとでつくられているピアノである。その音色はまろやか、弾き手によっては感情を伝える素晴らしいピアノである。

このピアノを購入したのは、穂積文子先生のお勧めによるものであった。同じホルーゲルのグランドピアノがかつての新星学寮にもあり、文子先生が弾かれると、あるときはまるで小犬がじゃれつくような軽快な音となり、またあるときは重厚な音となった。

私は、1956年穂積五一先生が主宰される

新星学寮に入寮した。そのとき、新星学寮の別室から、毎日のように、シューマンの「パピオン」が聞こえてきた。その「パピオン」は、ときにはやさしい音色、ときには重々しい音色を出していた。やさしい音色を出されていたのは、おそらく文子先生であり、重々しい音色を奏でられていたのは、穂積明子様だったのではないかと推測しながら聞きほれた。どちらの音色も私は好きだった。ホルーゲルというピアノは、弾き手の感情を反映するピアノだと私は思った。

文子先生は、原智恵子という天才的で有名なピアニストと比肩する天才的ピアニストであられた。ドイツから来日された指揮者ローゼンシュトック氏に才能を認められ、その指揮の下、度々演奏会をされた方であることを後で知り、びっくりすると同時に

成程と思った。だからこそあの美しく軽快な素晴らしい音色が出るのだ、と。

文子先生は、感情が平静で穏やかで愛らしい面と、情熱的で激情的な面との両面を持っておられた方だったと思う。ホルーゲルは、文子先生の両面を映し出すピアノであったと思う。

文子先生は、新星学寮の寮生には、いつでも明るく優しく、わけへだてなく接して下



新星学寮（改築前）

さった。そして明子さんという才媛のお嬢様と、一成さんという感情豊かで優秀な御子息に恵まれ、そして何より穂積五一先生という比類のない御主人にも恵まれ、たとえピアニストとしては華々しい成功を収められなくても、お幸せだったと思う。

私が新星学寮に入寮したのは大学三年生のときだった。穂積五一という先生が、戦前の右翼団体「七生社」の中心的人物であることは知っていたが、行く先がなく新星学寮に入寮した。ところが、入寮してみると、毎日のように「パピオン」の流れる寮であり、穂積先生は右翼めいたところの全くない方であり、それどころかアジアに対する戦争責任を我がことのように背負っておられる方であることが分かってきたのである。

私にとっては、穂積先生、文子先生のような存在がおられるとは、それ迄は夢にも思わなかった。しかし、実際に眼の前にそういう方がおられたのである。私は、一種のカルチャーショックを受けた。人生には



新星学寮を背にした穂積ご一家

マルキシズムでは解明できない生き方があるとつくづく思った。

そして穂積先生は、アジア文化会館を創設され、留学生から慈父と慕われた。その

生き方は、感動的という言葉では表現できない、峻烈な生き方をされたのである。

文子先生は、峻烈な生き方をされた穂積先生を支えられ、幸せな生涯を全うされた、と私は思いたい。ピアニストとしての華々しい人生を投げ捨て穂積五一先生と新星学寮を支えられた文子先生の



新星学寮のピクニックで訪れた真鶴（神奈川）で。後列右端が筆者



アジア文化会館地下ホールに置かれたピアノ

九十三年の生涯は、充実した幸せな人生であったとあの世で思われているような気がするのである。人生は、選択の連続である。文子先生は、最良の人生の選択をされて、あの世に旅立たれたと私は思う。

私が新星学寮で学んだことは何か。

第一に、穂積五一先生という「思想家」を知ったことである。その「思想」は、「マルキシズム」とは違い、「アジア主義」ともいうべき「思想」であった。

第二に、文子先生という芸術家を越えた存在がこの世におられることを知ったことである。

第三に、音楽という不思議な芸術がそれを聴いた人の心に一生涯消えることはないということを学んだことである。

第四に、穂積五一先生、文子先生、明子様、一成さん、ホルーゲル、音楽が一体となって私の心から、そして新星学寮の寮生だった方々の心から消えることはないであろう

ことである。

先日、文子先生の弾いておられたホルーゲルが、リニューアルされて、アジア文化会館に寄贈されたとのこと。文子先生の弾いておられた素晴らしいグランドピアノは、これからもアジアの留学生の心を癒していくことであろう。

想えば、新星学寮は、懐かしくも厳しい寮であった。青春の一時期、多くのことを学んだ寮であった。(了)

小田中 聡樹（東北大学名誉教授）



留学生の部屋探し 今、民間業者の取り組みは

日本政府が留学生30万人計画を策定してから7年。2015年度の留学生総数は20万人を超えました。今後2020年の計画達成に向け留学生数のさらなる増加が予測されますが、留学生にとっても受入れ先大学等にとっても宿舎の確保は重要課題と言えます。そこで留学生の宿舎の現状を見てみると、2015年度の留学生の居住先は、学校及び公益法人等が設置する宿舎に入居する留学生が全体の約25%、残りの約75%の留学生はアパートなどの民間の宿舎に入居しています。この結果を見ても、民間の宿舎事情とそのあり方は大変重要でありかつ無視できないものです。そこで最近の民間宿舎関連業者の取り組み等を把握するため、外国人の受入れに積極的な4社にお話をうかがいました。

株式会社エイブルコーポレートサービス

不動産仲介

東京・港区に本社を置くエイブルコーポレートサービスでは全国規模のネットワークと豊富な物件情報、ノウハウを生かし、様々な形で留学生の部屋探いをサポートしています。留学生をはじめとした外国人入居者の受け入れ状況とそれに関わる同社の取り組みについて代表取締役社長の松谷彰さんにうかがいました。

外国人経験値の高い不動産屋を選ぶこと

—— 外国人入居者の受け入れについて、ここ数年変化はあるでしょうか。

日本で暮らす外国人の数が増えて皆さん側も慣れてきたということがあり、頭から外国人は受け入れない、という大家さんは少なくなってきました。ただ、入ってくる方の国籍も変化してきていますので、

それによってこれまでとは違う対応を迫られるケースも出ています。例えば、これまで多かった中国、韓国の方が横ばいまたは減少する中、今度はアジアの他の国、ベトナムやインドネシアなどの方が増えてきています。同時に ABE イニシアティブ（アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ）など政府のプロジェクトによってアフリカ系の方が入ってくるなど、受け

入れ側がこれまで経験したことのない状況が生まれてきていますから、そこでまた違った新たな対応をしなければならないということがあります。

—— 御社では外国語による対応も行っているとうかがいました。

基本的に昔ながらの不動産屋さんというのは外国語ができませんから、日本語ができない方の対応はできません。仮にそこで無理矢理話し合っ出て出された物件を見に行っても、大家さんに外国人はだめだと言われて嫌な思いをすることになるケースが多いと思います。ですから、まずは外国人に対して経験値の高い不動産屋さんに行かれることが大切になります。

我々エイブルコーポレートサービスでは英語と中国語での対応を常に行っており、ご連絡いただけたら対応できるお店を斡旋することが出来ます。また、高田馬場には外国籍の方のための国際センターという店舗もありますし、仮に店舗に出向けなくても、我々が電話でご説明しながら物件をご案内するということも可能です。

—— 入居後のサポートなどもされているのでしょうか。

今の立ち位置で言うと最初に物件をご紹介させていただくだけになりますが、私たちは大学の留学生センターさんなどとお付き合いがありますので、センターの方々にご協力をさせていただくという形で留学生の方のサポートをさせていただいています。

具体的には、日本語が話せない方の場合、日本の慣習などもまったくわかっていないということになりますので、そういった入

口のところからご説明をさせていただいています。例えば弊社で出している4か国語に対応した多言語入居マニュアル『新生活サポート ガイドブック』では賃貸物件の入居までの流れや日本の生活慣習についてご紹介しています。

また弊社には元留学生の社員もおりますので、例えば「水が出ない」といった簡単なことならば相談に乗らせていただいています。物件のトラブルに対して我々が直接行動をするということは契約上できませんが、先輩が後輩の生活のサポートをするような形でサービスをさせていただいています。

—— 大家の理解を促すための活動なども行っているのでしょうか。

特別な活動というのは行っていませんが、外国人留学生を扱う機会というのは我々が一番多いと思いますので、大家さんにご紹介する際に、内容のご説明は行っています。大家さんもお客様はいたほうがいいわけですが、どのように部屋を使われるかわからない、何かあった時に言葉が通じないかもしれない、といった様々な不安を外国人の方に対しては持っているわけです。ですから、ご紹介をする際はそうした不安を解消できるように説明をしています。

海外にしながら日本の部屋探し

—— 過去に留学生が関わる賃貸トラブルというのはどのようなものがありましたか。

最大のトラブルといえば東日本大震災の時ですね。あの時に部屋をそのままにして



多言語入居マニュアル『新生活サポートガイドブック』

帰国してしまった留学生が大勢いたということです。学校が彼らの保証人になっていた場合、賃料の支払いや残置物の処理まで学校が責任を負わなければならないということで大問題になりました。通常保証人になる学校は「留学生住宅総合補償」制度^(※)の協力校になっていて、本来こうした場合いくらかの補償金が出るわけですが、学校側も初めての経験で手続きを怠ったためこれが支払われず、その結果大打撃を受けた大学もあります。ですからそれ以降、学校側がこの補償制度の利用を止めるなど留学生の保証人になることについて慎重になってきた、こういった事態が起こりうるということを各学校が認識し、対応が変わってきたということがあります。

こうした問題は震災後に一気に噴き出したわけですが、大学が保証人になっていた留学生が突然いなくなってしまうという問題は以前からあったわけです。

——保証人に代わる保証会社利用の流れにはそうした背景もあるわけですね。御社では留学生の受入れに関して特別なことは

されているのでしょうか。

弊社では、海外の方が日本に来る前、現地にいながらにして部屋を探せる保証制度を保有しています。お子さんを海外に留学させる親御さんとしては子供たちがどこに住むのかもわからない状況で外国に送り出すというのは非常に不安だと思うのですが、こうした問題を我々が解決出来たらと思い、取引をしている保証会社と共にこのシステムを作りました。

具体的には、我々が海外にいる親御さんのお話をうかがいサイト上に掲載された物件の中から条件に合ったものをご紹介しますので、それを見てお部屋を選んでいただくというものです。ご案内やご説明は日本にいる我々が直接させていただくので、インターネットが使える場所であれば、世界中どこにいても利用できます。

日本に来てからいろいろな手続きをしていただく通常の契約と違い、このシステムでは母国で入居審査を始めほぼ手続きは完了していますから、入国後は簡単な手続きだけで、すぐに入居できるというわけです。

—— 留学生は住居の心配をすることなく来日できるというわけですね。では、物件探しで難しいのはどのようなケースでしょう。

根本的な問題として、留学生の方が希望される賃料が低く、特殊な物件しか見つからないということがよくあります。例えば1人3万円で3人住める所を探して欲しいなど、日本の賃貸事情に合わない提示をされる方も多々おり、部屋が見つからないとしたら、おそらくそういった問題のほうが大きいのではないのでしょうか。もちろん全ての物件がそうした希望に合わないわけではありませんし、企業さんでも3LDKに社員の方を3人、4人住まわせるといった

ことはあります。ただそういった物件は圧倒的に少ないので、我々のように数量を扱っている所でないと探すのは難しいと思います。

—— 御社への外国人からの部屋探しに関する問合せは増えているのでしょうか。

個人の方というより、企業さんからの問合せは増えていますね。留学生の場合、学校の寮に入れたり、大学に部屋探しの窓口があったりということがありますが、一般の企業さんの場合はそうした手段を持たないので、外国人社員が急増する中、いかにして彼らの住居を確保するかという状況にあります。ですから、現在はそちらの需要が増えているというのが実情です。

株式会社エイブルコーポレートサービス

〒107-0051 東京都港区赤坂 1-2-7

Tel 03-5414-0155 Fax 03-5414-0174 E-mail ryugakusei@able.co.jp

<外国人のお客向けホームページ> <http://www.able.co.jp/international/>

※「留学生住宅総合補償」制度

留学生住宅総合補償は、海外旅行保険と保証人補償基金で構成されており、借戸室の失火等で家主等に対して損害賠償をしなければならない場合や、家賃の未払い等により保証人が家主から保証債務の履行請求を受けた場合に補償を行う制度。

(公財) 日本国際教育支援協会 (JEES) を契約者とし、本制度の協力校になっている学校の留学生(在留資格が「留学」であること)のみが契約・加入できる。

学校が機関として留学生の保証人を引受ける場合、この制度に学生が加入することを条件とすることが多い。

保険料等負担金 (1年間) 4,000円 (2年間) 8,000円

種別	補償対象者	補償内容	支払い限度額
保証人補償基金	保証人	保証人補償	30万円
海外旅行保険	留学生	留学生賠償	5,000万円
		傷害後遺障害	240万円

株式会社グローバルトラストネットワークス

保証機関

これまでの連帯保証人に代わり、保証会社の利用を条件とする賃貸物件が増えています。保証料として契約時に家賃の何割かを収める必要はあるものの、保証人探して苦勞することが多かった外国人、留学生からすると、これはとても良い流れのように思えます。しかし一方で、来日間もない留学生が本当に審査に通るの？という疑問も浮かびます。そこで日本で唯一の外国人専門保証会社として今年創業11年目を迎えたグローバルトラストネットワークス(GTN)にお邪魔し、国際人材部部長の林章博さんに同社の審査方法やサービスについてうかがいました。

ベトナム、ネパールが急増

—— 御社の特徴を教えてください。

当社の特徴として、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語の5か国語にネイティブ対応しており、日本語が全く話せない方にも対応が可能です。日本人以外であれば国籍も在留資格も問いません。また、入居中のトラブルサポートサービスも保証に含まれる形で行っています。

—— 契約者の方の国籍はどちらが多いのでしょうか。

ここ2年ほどはベトナムとネパールの方が急増していますが、圧倒的に多いのは中国で5割強となっています。2番目は韓国ですが、3番目のベトナムが迫っている状況です。そして、4番目がネパールです。この4か国で8割程を占めており、残りの2割でその他、ほぼ世界中の方にご利用いただいています。

—— ベトナムやネパールといった新しい



林章博さん

国の方が急増中とのことで、新たな問題等が発生しているといったことはありませんか。

これは15年ほど前に中国の方が急増した時と似たようなケースだと思うのですが、今、ベトナム、ネパールの方が急増する中、一つの部屋に何人もで住んでしまったり、

お部屋をまた貸ししてしまったりといった問題が現状無いわけではありません。ただそれは彼らに悪気があるわけではなく、まだ日本の賃貸物件利用に関する知識がなく自国にいる時と同じように生活しているから生まれている問題です。ですから、そこは違うんだということを教えてあげるのが我々の役割なのかなと思っています。

GTNの社員は70%が外国人なのですが、ベトナム人スタッフが10人程、ネパール人スタッフも5人程います。彼らは入居者の方からすれば日本生活での先輩ですから、ゴミの出し方がわからないという連絡があれば、先輩である彼らが「私たちの国ならこうだけど、日本ではこうしなければならんだよ」と諭すように教えています。ですから、入居者の方の納得の仕方、理解の仕方は、私が日本人の立場で日本のルールはこうだと説明するのに比べて、かなり違うのではないのでしょうか。

キーポイントは緊急連絡先

—— 審査時にはどのような確認を行っているのでしょうか。

お申し込み時に必要になるのは、留学生の方であれば「在留カード」と「学生証」、就労者の方は「在留カード」と「給与明細」です。これに緊急時の連絡先として本国のご家族…原則ご両親と日本国内のご連絡先の2か所をいただいています。国内の緊急連絡先になる方については国籍不問で、日本語が話せない方でも構いません。

審査時、双方にご連絡を差し上げて、親

御さんにはお子さんが日本でアパート・マンションを借りるための申請をしていることと、通常は日本に住む保証人が必要になることをご説明し、我々がご家族に代わって機関保証をする旨をお伝えします。その際、お子さんと連絡がとれない時は、ご両親にご協力いただきたいというお願いをします。また、その一方で、お子さんが日本で生活する上で困った時は何でも言って欲しい、我々が里親のような役目も果たすので、心配しないで欲しいという話をさせていただくんですね。すると親御さんも安心して、私たちに任せよう、何かあった時は協力しようというお気持ちになっていただけるわけです。

また、入居者の方からすると、何かあって親御さんに連絡が行くというのは、つまり家賃の滞納があった時などは親御さんに知られてしまうわけで、それはやはり嫌ですよね。その辺がおそらくはきちんと家賃を払おうという気持ちに繋がっていく大きなポイントになっているのではないかと思います。おそらく他の日本の保証会社さんで、こういったことをやられているところはないと思います。

—— では、外国人専門だからリスクが高いということはないのですか。

リスクについては、主に日本人を扱う保証会社さんとほとんど変わらないのではないのでしょうか。ただし、外国人の方の場合、退去＝帰国であったり、海外に行ってしまったれたりといったケースも多く、今、部屋に住んでいるのかどうかもわからないという場合もあります。しかし、私たちは電話

やメール、SNS など様々な手段を使って連絡を取ることができますし、仮に帰国している場合でもご両親を通じてお話しできますから、そこで一時帰国なのか、解約するのかという意思の確認がとれ、保証すべき不透明な状況を最低限に抑えることができます。入居者の方とそういった意思疎通を図れるというところがうちの強みだと思います。

—— 留学生の契約者はどのくらいいらっしゃるのでしょうか。

全体の利用者の 58% が留学生の方で、残りの 42% が経営者を含めた就労者の方です。

—— 留学生が毎月家賃を支払えるかどうかの判断はどのようにされているのでしょうか。

審査方法はケースバイケースですが、端的に言いますと、留学生さんの場合、本国からの仕送りがあるかないかということが一つの大きなポイントになります。仮に仕送りが全くない、アルバイトもしていないという場合は我々としてもなかなか審査を通しにくいということはあります。

の事故率が非常に低いこともあり、提携大学の方には通常（家賃の）50%の保証委託手数料を 30% でご利用いただいています。

—— 保証人となる学校ではこれまで留学生住宅総合補償制度を利用しているケースが多かったと聞きます。

留学生住宅総合補償は留学生の方だけを対象にしており、研究員の方や教職員の方などは対象外なんです。ですので、そういった方々の場合、これまでは研究室の教授が連帯保証人になるなどして対応してきたわけですが、そこから私たちの保証にシフトしていきといったお話はいただいています。

また、滞納等があると大学が補填することになるのですが、通常大学はそのための予算をとっていませんから、どうやって資金を捻出するんだという問題があります。もっと具体的なところだと、例えばゴミ出しのルールが守られていないといった連絡なども全て保証人である大学に来るわけです。どこの大学の留学生担当部署も少人数で対応していますから、留学生が何千人にもなると対応しきれません。ですからそ

進む大学との提携

—— 大学との提携を進めているそうですね。

大学との提携は早稲田大学さんを皮切りに始まったのですが、現在 20 の大学と提携しています。留学生さん、特に大学に通っている方の場合、滞納等

GTN の賃貸保証手数料

<料金>

- ・ 初回保証委託手数料：総賃料の 50%（最低保証委託料：関東エリアは 20,000 円、その他エリアは 15,000 円）
- ・ 年間保証委託料：10,000 円

<保証金額>

最大で月額賃料合計の 48 か月分

こはアウトソーシングしたいというご要望があるわけです。

—— 入居後のサポートが保証に含まれているというのは入居者を含む全ての関係者にとってありがたいことですね。

大家さんが外国人入居者を受入れる際の懸念点としては大きく二つあると思っています。一つは、日本に来てまだ間もない人たちが、果たしてきちんと家賃を払ってくれるのかということ。二つ目に入居中の諸々のトラブル時にどう対処すればいいかということです。注意喚起するにしても、案内を通知するにしても、言葉が通じないかもしれないという不安があるわけです。ですから、家賃保証はもちろん、そうした諸連絡も私共にお申し付けくださいということです。例えば契約更新に関わる意思確認のお手紙を出しても、日本語がわからなければそれは放置されてしまいます。そうした時、書類を送ったんだけど、わかっていのかどうか確認して欲しいというご用命をいただければ、こちらで連絡をさせていただくというメッセージ機能を私たちが担います。入居者の方からのお問い合わせもそうで、エアコンがつかないとかお湯が出ないとか、私たちに言っていただければ、簡単なことであれば私たちがそのまま

即時対応しますし、大家さんの判断を仰ぐ必要があるようなことであれば、メッセージ機能を果たします。

逆にこの部分をやらなければ、家賃保証だけでは、大家さんの理解、安心というのは得られないと思っています。

—— 実際、サポートの依頼は多いのでしょうか。

サポート依頼については今年6月のひと月で1,800件程ありました。このうち当日中におよそ80%、月内ですとおよそ97%の問題が解決しています。生活サポート部という20人程の部署で対応していますが、契約件数が上がるとともにサポートの依頼も増加しており、これに対応していくというのが、なかなか大変なところではあります。

—— 今後の課題について教えてください。

今は首都圏一都三県と関西、加えて北海道や広島、九州などは各国立大学を起点にする形で全国展開を進めていますが、エリアによってはインドネシアの方が増えていたり、入居者の方の国籍のダイバーシティ化というのが進んでいます。ですから、それに応じて言語を増やすなど、社内の対応力を付けていくべきと思っています。

株式会社グローバルトラストネットワークス (GTN)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-21-11 オーク池袋ビル2F

Tel 03-6804-6801 Fax 03-6804-6802

<http://www.gtn.co.jp/>

シェアハウス という選択肢

ここ数年よく耳にするようになったシェアハウスという言葉。その名の通り複数の住人が一つ屋根の下で暮らす共同下宿のことなのですが、最近のシェアハウスの特徴は、内装やインテリア、住人同士の交流にこだわった、個性豊かな物件が多いということ。外国人対応を謳う物件も数多く、保証人が不要など入居手続きが簡単、短期から滞在可、そして何より日常的に日本人と触れ合えるということで、留学生の宿舎としても注目を集めています。



シェアハウスの総合情報サイト「ひつじ不動産」
www.hituji.jp

株式会社ファインセレクト

シェアハウス

2011年にシェアハウスの管理・運営を開始した株式会社ファインセレクトは2016年6月現在、一都三県で78の女性専用シェアハウスを運営。入居者数はおよそ600人、うち外国人は3割で、およそ40か国の人々が生活しています。ファインセレクトのシェアハウスとはどんなところなのか、同社代表取締役の四宮一さんと商品企画部課長の前田暁子さんにお話をうかがいました。

外国人がいることで魅力的なハウスに

—— 御社のシェアハウスの特徴を教えてくださいませんか。

前田 特徴としては全物件が女性専用で内装や家具のコーディネートにこだわっているところと、共用部分に週に一回うちの女性スタッフが清掃に入るということです。一般に共用部分の清掃というのは住人が当番制でやられているところと清掃スタッフを入れるところと両方あるのですが、清掃

を入れているハウスでも外部の清掃業者に委託している会社が多いんです。弊社の場合は全ての物件に週1回弊社の女性スタッフが直接出向き掃除をし、消耗品の補充等を行っており、その際ハウスの様子を見ておかしなところがないかということを確認しています。ですので、例えば入居者が入れ替わったタイミングで明らかにそれまでと様子が変わったことがあれば、少なくとも一週間の単位では気付け、対応できるわけです。

——なぜ女性専用なのでしょうか。

四宮 シェアハウスの運営では通常の不動産に関わる業務以外に、人間関係のトラブルの調整が入ってきます。それに加えて男女の問題が増えるのはどうかなという、ただ単にそれだけの理由で女性専用という形で始まり、そのまま数がどんどん増えてきているという状況です。ただし年内には現在（入居者10人前後のハウスが中心）よりも大きい、30人、50人規模のハウスで男女が入れるものを始める予定です。

——外国人比率が高いように思いますが、意図的に外国の方を増やしているのでしょうか。

四宮 弊社はスタッフが日本語、英語、中国語、韓国語の4か国語に対応でき、ホームページもそれぞれの言語で閲覧できるようになっていますので、自然に外国人の方が増えているというところはあります。また、日本人からの問い合わせでも「外国の方はいますか？」というものは少なく、日本人にとっても外国人の方がいらっしゃる方がいいんだと感じています。ハウスに外国人がいて、語学の勉強ができるかもしれない、新しい交流ができるかもしれないと、日本人にとっても魅力的なハウスになると思っています。

——外国人の方はどのような理由で御社のシェアハウスを選ばれるのでしょうか。

四宮 まず女性専用でデザインにこだわっ



四宮一さんと前田暁子さん

ていますので、そこを気に入ってくださるということですね。それに親日で日本への関心が高い方が多く、もっと日本のことを知りたいということで、日本人と一緒に住むことを選ばれるようです。ある日本語の上手なフランス人の方なのですが、一人でお笑い番組を見ていると、どうしてここで日本人が笑うのかわからないことがよくあると。日本人と一緒に見ていれば、その理由をすぐに聞けるからうちのハウスに来たという方がいました。確かに、そういうことは学校や会社で日本語を使ってもわかりませんから、なるほどと思いました。

——外国人入居者の国・地域別の割合はどのようになっているのでしょうか。

四宮 現在、外国人入居者のおよそ3割が台湾の方で、3割が韓国、中国、香港の方、残りの4割が欧米、東南アジア、南米他の方という状況です。女性専用ですから、イスラム圏などの方はあまりいらっしゃらないのですが、ほぼ世界地図を網羅しているという感じです。

——留学生の割合はどのくらいでしょう。

四宮 外国人入居者のうちの約半数は留学生、半数は社会人です。日本語学校生の場合ですと、最初は学校の寮のようなところに入るわけですが、日本人がいまませんから日本語が上達しない。それでこちらに入られる方もいらっしゃいます。

——最低入居期間、最長入居期間はありますか。

四宮 最低入居期間はハウスによって異なりますが、多いのは6か月間というところ。また最長期間はありません。ハウス開設以来、5年間いらっしゃるアメリカ人の方もいます。

年間100か国以上からアクセス

——入居に際してはどの程度の日本語力が必要になるのでしょうか。

四宮 スタッフが対応できる言語であれば契約書もその国の言葉で作れますので、そういう意味では日本語か英語、中国語は片言でもいいので出来て欲しいのですが、必ずしも必須ということではありません。例

えばロシアの方で英語も日本語もできないという場合、うちのスタッフも対応できないことがあるわけですが、本当に困った時は入居者にロシアの方が大勢いますから、通訳を頼むことができます。

前田 日本語については入居時点で出来なくても、学ぼうという前向きな意欲がある方であれば、言葉が原因でお断りすることはありません。

——では入居審査はどのようなことをするのでしょう。

前田 インタビューと、在留カード・ビザの確認です。保証人等は必要ありません。インタビューでのチェック項目は、主に人間性を判断するための内容になります。ハウスルール（ゴミ当番など）の説明をし、他の方と必要な範囲のコミュニケーションを取って共同生活を問題なく送れるかどうかというところに主眼を置いています。それに加えて、外国の方の場合は日本語がどのくらいできるか、それ以外にどの言語がどの程度できるかということは確認しています。また、外国の方に限らず、学生さんの場合は家賃をどのように支払うつもりか



田端 Macaron



…アルバイトや奨学金を使って自分で払うのか、親が出してくれるのかといったことと、契約時、社会人の場合は勤務先の連絡先、学生の場合は学校名等をうかがっています。

—— 収入を証明するための書類等は必要ないということですね。

前田 お家賃が払えるかどうかについては、主にインタビューで判断しており、証明書のようなものは特にご提出いただいておりません。弊社シェアハウスの場合、他の日本人の入居者の方を含めて、延滞等はほとんどなく、外国人の方の方が延滞率が高いということもあります。

—— 海外から直接入居の申し込みをすることも可能なのでしょうか。

四宮 可能です。今はメールや Skype のやり取りでお話しができますから、それで人間性の部分も判断させていただいています。

—— 海外からの問い合わせは増えていますか。

四宮 増えています。弊社のサイトはどこからアクセスされているかがわかるのですが、それによると月間およそ 50 か国の方が海外から閲覧されており、1 年間にすると 100 か国以上からアクセスがあります。特にお金をかけて海外向けに広告を出しているわけではないので、こちらがどこで見つけてくるんだろうとびっくりしているほどです。例えばスウェーデンからの問い合わせが一気に増えたことがありましたが、おそらく向こうの掲示板で紹介されただろうなあとという感じで、あえてそこはコントロールしていません。

イベントも含めたシェアハウス運営

—— 外国人入居者ならではの要望や苦情はありますか。

前田 インターネットの接続料は共益費に含まれているのですが、外国人の方ですとメールや Skype で母国の人と連絡を取り合うということが日本人の方よりも多いので、ネット環境が安定しているかということをとてとても気にされる方が多いです。ですからネット回線の調子が悪い時にご連絡をいただくのが早いのは、だいたい外国人入居者の方ですね。

—— 外国人入居者の方が戸惑うことや日本人とトラブルになるようなことはありませんか。

前田 外国人入居者の方が最初に戸惑われることが多いのが、ゴミの分別といった生活慣習に関わることです。こちらも最初の入居時に十分説明をしていますが、母国とは違うので思い込みとか勘違いなどがあつたりして、本人的には守っているつもりだけど基準とずれてしまう、分別の表を見てもそれがどの区分に入る物かわからず、間



Belle Philia 下北沢



違った出し方をしてしまうといったことがよくあります。

共用部分のゴミ出しは入居者が当番で行っているのですが、日本人の方が当番でゴミを捨てようと思ったら、捨てられないものが混ざっていたといった場合など、もちろん入居者同士で話して解決する場合もありますし、私たちが相談を受けてお話することもあります。

四宮 大きなトラブルというのはありませんが、欧米人の方によくあるのがハウスに男性を連れてきてしまうということです。欧米は契約社会ですから契約書の内容はほぼ守っていただけるのですが、ことそれについては自分たちのプライベートな部分という感覚が強いのか、共通してそういう面があるようです。

—— 各ハウスではパーティーなども行われているようですが、御社が主催しているのでしょうか。

四宮 自主的に行っているところもありますし、放っておくと何も行われないうなところについては、うちで企画することもあります。

前田 例えば4月のお花見イベントは私たちが全てのシェアハウスに呼びかけて合同で行っています

が、外国人の方にはお花見が好きな方が多いので、喜んでいただいています。

四宮 ただ部屋を貸すだけではなくて、そういうイベントも含めてのシェアハウス運営なんですね。

—— これから入居したいと考えている人に、どのような点に注意すれば快適なシェアハウス・ライフを送れるか、アドバイスをお願いできますか。

四宮 外国人の方の場合、母国が日本と時差のある国だと夜中の電話の声というのがクレームになりやすいので、そういうところに配慮してもらおうといったことです。あとは特別なことはなく、みなさん休みの日が合えば入居者同士でどこかに出かけられたりしていますが、楽しんで生活していただければと思います。

株式会社ファインセレクト

〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目15番9号

Tel 03-5289-8015 Fax 03-5289-8016

<http://www.fineselect.jp>

株式会社ボードレス・ジャパン ボードレスハウス

シェアハウス

2008年5月に第一号となるシェアハウスの運営を東京都内で開始したボードレスハウス。どのハウスも5:5という日本人（現地人）、外国人の入居者比率と“交流”にこだわった運営が話題を呼び、2016年6月現在、日本、韓国、台湾で119ハウスを運営しています。入居者の国籍は50か国以上、運営開始からこれまで5,000人以上が生活してきたという同ハウスの魅力を、ハウスマネージャーの諏訪脩人さんにうかがいました。

コンセプトは国際交流シェアハウス

——（株）ボードレス・ジャパンがボードレスハウス事業を始めたきっかけを教えてください。

私たちは以前、ウェブと電話を使ったお部屋探しのお手伝い、賃貸仲介の仕事をしていたことがあるのですが、そこで海外のお客様をお手伝いすることがあり、外国人の部屋探しの難しさを身をもって体験しました。そして、これは日本の中の大きな問題だと感じ、解決する手段の一つとして自分たちで外国人が宿泊できる物件を運営してみようかということになったんです。当時はシェアハウスという発想はまだなかったのですが、海外から日本に来ている人がどういう生活をしているのかを調べてみると、思った以上に日本の人と触れ合う機会がない生活をしており、それならば彼らがもっと日本のことを知るができる、日本の人と繋がることのできる物件にしたいということで、日本人と外国人が半数ずつ住めるシェアハウスを作ることにな



諏訪脩人さん

りました。

—— 物件の特徴や入居者数を教えてください。

ボードレスハウスのコンセプトは国際交流シェアハウスということで、“交流”という部分が最も大切なポイントになります。ですから私たちが物件を選ぶ際に重視しているのは、主な交流の場となるリビングの位置や大きさで、どのハウスも入居者の方

が1日一度は顔を合わせられるような間取りになっています。また、テレビをはじめ家電を各自の部屋に置くのは禁止で、冷蔵庫も電子レンジもリビングに行って共有のものを使っていただくことになっています。

入居者数は少ないハウスで5～6人、現在一番多い所だと29人の方が住んでいますが、お互いの交流ということを考えた時にあまり大規模になってしまうと一人一人の関係性が薄くなってしまいますので、10～15人の規模のところを増やしていきたいと考えています。

—— 全体の半数が外国籍の方とのことですが、出身地域や留学生の割合について教えてください。

外国籍の方の出身地域は、現在欧米が60%、アジアが32%、その他が8%となっています。一つのハウスの中で国籍が被らないように配慮して運営してはいますが、国籍比率を理由に入居をお断りするようなことはありません。

また、外国人入居者の半数以上が留学生で、そのうちの多くが日本語学校生の方です。

—— 18歳から35歳という年齢制限があるそうです。

みなさん交流したいという気持ちをもってハウスに入居してくるわけですが、実際自分の生活がある中で他の住人と触れ合うというのは意外と難しいんですね。共通の話題が少ないがゆえになかなか会話が行われなかったり、交流意欲はあっても年齢が上がるにしたがって自分が思った以上に寝に帰るだけの生活になってしまったり。そ

こで、より濃い交流を感じてもらえる空間を作るにはどうしたらいいかということを考え、ある程度年齢を絞り価値観や話題を統一することで交流を深められないかということで、現在の形に落ち着いたわけです。ですので、年齢の上限がいくつなのかというのは永遠に議論される場所であって、私たちの運営方法次第ではもっと幅広い年齢の方を巻き込んでいけるのではないかと考えています。

入居条件で語学力は問わず

—— 入居にあたってはどのような審査が行われるのでしょうか。

パスポートなど身分証明書の確認とインタビューを行っています。保証人や収入証明書のようなものは必要ありません。インタビューで重視して見ているのは、その方が国籍に関わらず様々な人と出会いたい、関わりたいと考えているか、そして様々な国の人と関わることで自分をもっと変えたい、自分の世界を広げたいと思っているか、といったことです。ハウスでの出会いによって未来を作りたいと思っている方には積極的に入居していただきたいと思っています。

—— 日本語をはじめとした語学力についてはどうでしょう。

日本語力も英語力も全く問いません。私たちが今現在完全に対応できる言語は日本語、英語、韓国語、ドイツ語なんです。それ以外の言葉しかできない方の場合は翻訳ソフトを使うなどして根気強



ボーダレスハウス板橋志村1の
リビングダイニングと個室

く連絡を取らせていただいています。当然、それはお互いに大変な作業なのですが、それでも連絡を取ろうという意欲のある人でしたら、コミュニケーションはなんとかとれるんですね。

おそらくはそういう人、言葉がうまく通じないという方々が、一番部屋を探しづらいと思うんです。私たちの当初の思いは、外国人の方の部屋探しを何とかしたいということですから、そういう方からの問い合わせがあれば、私たちのハウスに限らず出来るだけ協力してその方に合ったお部屋を探すようにしています。

—— 入居後に実際のどのくらい交流しているか、とうことも見られているわけですね。

交流の有無を判断する明確な基準があるわけではなく、ケースバイケースで判断しています。私たちのハウスは他のシェアハウスよりも少し賃料が高めなのですが、それは日本人と外国人の確実な交流を保証しているからです。そこに付加価値を感じて、少し高い金額を払ってでも交流をしたいという方に住んでいただいています。ですから、本当に寝るだけの生活になって交流が

できていないというのは、入居者ご自身にとっても良くない、もったいない状況だといえるわけです。

ですから、あの人はハウスに合わないのでは？という声が耳に入ると、こちらもだいたいの状況が予想できますから、あとは直接ご本人と話す機会を持って、本当に忙しくてハウスにいてもアパートにいても変わらないということであれば、一緒に別の選択肢を考えることもあります。

—— 入居時にはその人に合ったハウスを紹介されるそうですが、各ハウスの個性作りのようなこともされているのでしょうか。

スタッフが意図して各ハウスの個性を作っているということはありません。ただし、どのハウスでもスタッフは入居者との関わりを意識して持つようにしていますから、入居者の方々が作り出すハウスの雰囲気や共有部の清掃、整理の状況など、それぞれのハウスの個性は把握しています。ですからシェアハウスには初めて入るという人が、パーティー大好きなハウスに入ってしまう「もうダメだあ」となってしまうことがないよう、その人がどのように生活した

いのか、何を求めているのかということと、現状の各ハウスの状況を踏まえてマッチングをしています。

世界の住居と教育のインフラに

——— その他、運営上気を配られているところはありますか。

「お掃除」が大きいですね。共有部の掃除は入居者のみなさんにやっていただいているのですが、そこがうまくいっているかというのは気を配るポイントです。あるハウスはリーダーシップを発揮してスケジュールを作る人がいる、あるハウスは全員で話し合って決めていくといったように、やり方はハウスによってまちまちなんですが、入居者のほとんどの方が入れ替わってルールを全て変えざるを得ないという状況になると、いったんスタッフが中に入り、一緒にルール作りから始めるということもあります。

また、普段私たちが回ってみて、汚い、物が散らかっているといったハウスの場合、「改善してもらいたい」ということをまず皆さんにお伝えして、それでも改善されない場合は、お一人お一人に連絡を取ってお話をうかがうようにしています。特に半数以上の方が入れ替わるタイミングでは、こうした問題が起こりやすく、私たちも気を付けて見えています。

——— 外国人の方からの悩みや相談はありますか。

実際、みなさん生活に関わる小さな悩みや相談事はたくさんあると思いますが、私

たちがそれを聞くことは、入居している人数と比べると少ない印象です。そういう話がスタッフまで来ないのは、日本人入居者の方が助けてくれている、つまり各ハウス内での交流がしっかり出来ている証拠なんだと思います。

——— では苦情や要望といったものについてはいかがでしょう。

そこまで多くはありません。強いてあげればたまに同じハウスに友人と住みたい、カップルで住みたいという声がありますが、よほど特別な理由がない限りお断りしています。なぜなら、より多くの人と交流の機会を作るというのが私たちの一番の目的であるからです。友人や恋人と一緒に住んでしまうと、どうしてもその人と繋がる時間が多くなり、他の人が話しづらいという状況が生まれてしまう可能性があります。ですから、私たちのコンセプトを理解してくれているのなら、ハウスはそれぞれ別の所に住んでいただき、会いたいときに会ってもらおう。ハウス内では他の人と触れ合って欲しいというお話をしています。

——— 入居者の方が海外のハウスに無料で宿泊できるプログラムがあるそうですね。

「エクステンジ プログラム」というもので、日本、韓国、台湾、いずれか滞在先のハウスで家賃を払っていれば、渡航先のハウスに1週間から1か月の期間無料で滞在できるというものです。

実はこのプログラムについては個人的に世界の教育と住居のインフラになればいいなと思っているんです。どういうことかと言うと、このプログラムを使えば、海外に



ハウスの最低滞在期間は1か月

行く際、どこに泊まればいいのか迷う必要もホテル代を心配する必要もありません。さらに現地のハウスには交流意欲のある地元の人たちが住んでいますから、行けばすぐ友人ができる。つまり、外国に行く不安感というのが無くなるわけです。今、フライトのお金がどんどん安くなっていますが、それに加えて住居の心配がなくなれば、もっと多くの人が気軽に国境を越えられるようになると思います。

また、様々な国籍の人が同じ場所に住み、交流できる環境がそこにあるということは、その人たちを通じて様々な国のことを知ることができるということです。そこでは文化的背景や言語が違ってても“人って変わらない部分は変わらないんだ”ということを学べます。結局それは国と国との争いをなくす一番地道で効果的な方法だと思う

ので、各国のボーダレスハウスに滞在し、そこで世界を知ることができるというのは教育的な意味でも素晴らしいことだと思っています。

ですから、このプログラムには凄く可能性を感じているんです。

——— 今後の展開について聞かせてください。

国内については大阪と京都がようやく始まったという状況なのですが、今後はさらに地域を広げていくことになると思います。ただし、一定数外国人の方がいる地域でないと私たちのコンセプトにあった運営はできませんから、次が福岡なのか札幌なのかはまだわかりませんが、そういった都市部で物件を出していくというのが次の展開になります。同時に海外については第4か国目に進出するというのが大きな方向性です。

また、より幅広い方々との交流という部分では、外国人入居者の方が日本人ホストファミリー宅に2泊3日で宿泊できる無料ホームステイプログラムを実施しており、各ご家庭でお子さんからお年寄りまで幅広い年齢の方々と交流をいただいています。こうした形で、ハウス内に限らず国際交流の素晴らしさを体験できる人の数を増やしていきたいと考えています。

株式会社ボーダレス・ジャパン

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 2-17 八重洲市谷ビル 6F

ボーダレスハウス 東京 ☎ 03-5227-7370 関西 ☎ 06-4393-8747

<http://www.borderless-house.jp/jp>

日本語観光ガイドから留学生へ

ポッ・ソヴァンナ ～カンボジア

Mr. POK SOVANNA

東洋大学大学院 国際観光学専攻 博士前期課程 2 年

日本語を学び観光ガイドに

高校を卒業後、地元プノンペンの国立大学受験に失敗し、どうしようかと思っていた時、伯父に紹介してもらったのが、シェムリアップにある山本日本語学校でした。この学校はカンボジアにおける日系旅行会社の先駆者的存在である JHC アンコールツターの山本宗夫会長が設立した 2 年制の学校です。授業料も寮費も無料、その上当時は奨学金ももらえて、卒業後は日本語ガイドなど旅行業界で活躍する道が開けていましたから、私は迷うことなくこの学校への入学を決めました。

そして 2002 年、日本語学校を卒業した私は希望通り日本人向けの観光ガイドになり、それ以来日本からのお客さんのお世話をする毎日を約 10 年間送りました。

ガイドをしていて実感したのは日本人のマナーの良さです。私たちが説明をしている時、頷いたり返事をしたり、みなさんちゃんと聞いていて



くれるんですね。業界では、説明を聞かないでフラフラ集団を離れたり、写真を撮っていたり、集合の時間を守らないといった人を「ガイドにとって邪魔なお客さん」と言うの

ですが、日本人はそういうことはほとんどしない。ツアーガイドにとって理想的な外国人観光客を上げるとしたら、日本人はベスト 1 じゃないかなと思います。

ただし、だからこそがんばらないといけない、全力でやらないといけないというプレッシャーが常にあり神経を使いますから、そういう意味では世界一疲れるお客さんですね（笑）。

そんな日本人のお客さんに対して、実は一度大きなミスをしてしまったことがあります。アンコールワットの日の出見学の際、ホテルでのお客さんのピックアップに遅れてしまったんです。寝坊して 15 分くらい遅れてしまったのですが、現場に着いた時にはもう朝焼けが終わりかけていました。アンコールワットからの日の出見学はその日の朝だけですから、み



バイヨン寺院遺跡前でツアー客のみなさんと（前列左端）



日本語教育プログラム修了式で

なさん期待していたと思います。その後のツアー中も、当然みなさんの不機嫌な空気というのは伝わってくるのですが、直接怒鳴られるようなことはなく、申し訳ないと思いますが、日本人の忍耐強さに感心した思い出があります。

また、ガイドをして一番嬉しかったのは、初めて団体旅行のお客さんを受け持った時でした。ガイドをはじめ当初は少人数のツアーばかりを担当させられていたのですが、この時初めて会社の都合で急に大きな団体客を担当することになったんです。初めての団体客ということで、失敗してはいけないとかなり緊張して仕事に臨んだのですが、結果、みなさんすごく喜んでくれて、最後の日には参加者全員の方からチップをいただきました。お客さんが心から喜んでくれた結果チップをくださる。ガイドをしてい

てそれ以上嬉しいことはありません。それに加えて初めて担当した大きな団体のツアーが大成功だったということを実感して本当に感動しました。

日本留学へ

私は、仕事のかたわら大学、大学院にも通ってMBAを取得しました。ですから自分でスケジュールを管理できるガイドの仕事は私にとっても合った仕事だと思っていたのですが、新しいことにもチャレンジしたいという思いもあり、2013年頃ブノンベンに日本企業に転職したんです。日本への留学を考えたのはここで出会った同僚から日本政府（文部科学省）の奨学金留学生のことを教えてもらったからです。

留学には子供の頃から憧れていましたが、自分の中では留学＝自分の苦手な英語というイメージが強かった上、そ

もそも自分は勉強は得意じゃないからと、留学を現実のものとして考えたことはありませんでした。でも同僚から日本なら日本語ができれば行けるかもしれないと聞いて、試験を受けてみることにしたんです。そして意外にも合格することが出来ました。

私の今の大学院での研究テーマは「シェムリアップ市・アンコール遺跡群の来訪者行動に関する研究」です。どんな観光客が来訪しどんな行動をし、どのように感動し、どのように観光地を評価したかといったことを調査し、その観光地の問題点や改善点を考察するというものです。

東洋大学での留学生活は満足できるもので、指導教員は優しく、自分にまだ足りない点についてどうすれば改善できるのかを指示してくれますし、来日前は苦手意識のあった統計学の知識が身に付き、



佐渡島を旅して

東洋大学の校舎を背景に



プレゼン能力もずいぶんついたと思っています。唯一不満なのは自分の日本語の能力で、時々登場する専門用語には未だに苦勞しています。文章全体の把握はできても100%理解できないというのは不満で、まだまだ日本語を鍛えないといけないと思っています。

日本生活は窮屈？

実は初来日は日本に留学するずっと前、日本語学校を卒業してから1年程たった頃でした。カンボジアで日本語弁論大会に出場して最優秀賞をもらい、その賞品として日本旅行がプレゼントされたんです。その時の日本滞在は夢を見ているような感じでした。東京と福島でホームステイをしたのですが、みなさん優しくて親切、出てくる食べ物は何れも美味しく、観光地はどこもきれい、街は清潔で美しい高

層ビルがいくつもあって……ここにいつか住んでみたいなあとかから思いました。

ただ、実際に生活をしてみると日本の窮屈な面も見えてきます。私は半年間民間のアパートに住んでいたことがあるのですが、アパートで外国人は私1人ですから、ゴミの分別でその日に捨てられないものがゴミ袋に混ざっていると、すぐに私が疑われて管理人さんから電話がかかってくるんです。その度に自分ではないと説明するのですが、気分はあまり良くありません。また、友達が部屋に遊びに来た時も、ちょっと話ただけで隣の部屋の人から苦情が来るなど、短い間でしがけっこう注意されました。

日本はルールがしっかりしていてみなぎそれを守って暮らしており、それが日本社会の素晴らしいところです。一方で私が育った国の環境はそ

うではありません。でもその代わり日本にはない開放感があるんですね。

私は自由が好きですから大学院修了後はカンボジアに帰るつもりです。そして帰国しても、会社員になるのではなく、自分でビジネスを立ち上げたいと思っています。例えば今考えているのは旅行者向けの新しい土産物の製造販売です。今までの仕事の経験と学校で学んだ知識を生かして、自分の理想の人生を歩んでいければと思っています。

最後に、私はカンボジア人に日本留学を勧めます。ここに来れば最低でもカンボジア人とは違う日本人の考え方、習慣などを学ぶことが出来ますし、実際に日本社会で生活し、日本の職場で働くことで実践的な日本語を会得することが出来ます。それだけでも日本に来る価値はあると思っています。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ＆先生によるリレーエッセイ

泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

⑱ パッタナカーンという所

池田 隆

パッタナカーン通りは、バンコクの東部を東西に走る8kmほどの通りである。TNIは、このパッタナカーン通り沿いにある。

バンコクはどこもひどい渋滞で、このパッタナカーン通りも例外ではない。そのため、筆者は大学から徒歩10分程のアパートに住んでいる。ちなみに、大雨が降っても、交通はマヒしてしまう。

さて、このパッタナカーン通り、表通りは、バンコクの他の場所との違いはないが、一部のソイでは、中に入ると、少々雰囲気異なるソイがある。(ソイとは、大通りに対して垂直に分かれた細い路地を指す。)

実は、この辺りを含め、バンコク東部は、イスラム教徒が数多く住んでいる土地なのである。そのため、スカーフを頭から被った女

性や、中東風のゆったりした服を着た男性を良く見かける。コンビニでアルバイトしている若い女性もスカーフを被っている。そのコンビニではハムやソーセージも売っている。当然豚肉を使った商品もある。筆者はネームという豚肉を発酵させた酸味のあるタイ風ソーセージが好きなので、買い物かごに入れる。しかし、レジで一生懸命仕事をする彼女をチラリと見て、思いとどまり、ネームをそっと商品棚に戻す。ソイの中には、モスクや、イスラム教徒のための学校もある。表通りに出なくても、彼らにとって必要なものはソイの中で揃いそうである。

バンコクは水の都である。チャオプラヤー川沿いに街が作られ、交通や流通のために無数の運河が掘られ、周辺の土地と結ばれた。



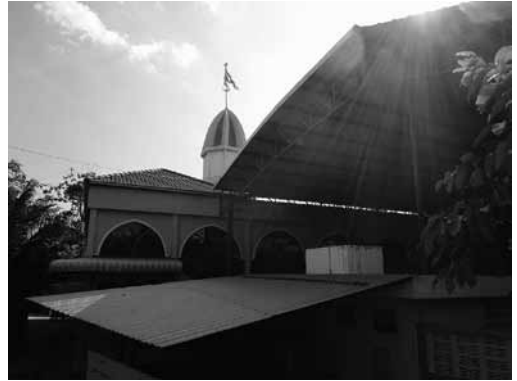
運河



市場の様子



南部の料理



パッタナカーンのモスク

運河とイスラム教徒との関係は深い。イスラム教徒は運河を掘るための労働力として、南部タイのイスラム系の王国から、強制的に連れてこられたという経緯がある。現在も、南部との繋がりがあり、祭日などになると、南部の県のナンバーをつけた車を見かける。

仕事帰りには、市場に立ち寄る。市場に行けば、南部の料理を楽しむことができる。ドライカレー、発酵エビペースト味のご飯、塩漬けのゆで卵（ものすごく塩辛い）、ローティー、マタバ（ローティーにカレー風味の具を入れたもの）、南部風カレーなどである。その他、筆者が美味しいと感じるのは、とりのから揚げや、カオマンガイ（茹でとり肉＋とり風味のご飯）である。普通の店の場合は、パサパサなものが多い。しかし、イスラムの店のものは、火の通し方が絶妙で、肉のしっとりとしたやわらかさとジューシーさが後を引く美味しさである。

帰り道は、運河沿いをそぞろ歩き。ジャックフルーツや、パパイヤ、マンゴーなどが実り、美しい南国の花々も咲き誇っている。運

河には「主」とも言うべき、体長1メートル以上のオオトカゲが住んでおり、運河をのんびりと泳いでいる。スピーカーから流れるアザーンの声、南部の人たちが家の前で飼育する鳥のさえずり、時折、マレー系タイ人が話すマレー語の方言であるジャウィー語まで聞こえてくる。運河沿いにあるモスクでは、人々が集まり、祈りの他に、おしゃべりや、スポーツをしている。たまに、婚礼の宴に遭遇する事もある。大勢の人が楽しそうに食事をしている様子を見てみると、こちらまで楽しくなってくる。ここはバンコクであるにもかかわらず、まるで、南部にいるかのような錯覚を覚える。

タイには異国情緒あふれる街角がいくつかある。中華街のヤワラート、アラブ人街のナナ、インド人街のパフラット等である。それぞれの街は強い個性を持ち、外国人観光客をも魅了する。しかし、ここはそのような派手さはない。地味に、ひっそりと、存在しているという感じである。そのような雰囲気が心地よい。パッタナカーンとはそういう所である。

池田隆（いけだたかし） 泰日工業大学（TNI）教養学部日本語講師。2003年青年海外協力隊員として、タイ国ウボンラチャタニ大学に赴任。その後、タイ南部タクシン大学を経て、現職。

ABK is My Home

懐かしの来館者



2016/7/11

Lock Hon Yee 氏 (マレーシア、
ABK日本語コース1988年卒、)
(中央)

2016/7/12

魏 庆鼎氏 (中国、元北京大教授)
(右から3人目)



2016/7/19

Pham Hanh Tam さん (ベトナム、
1993.10 ~ 1994.3 ABK 日本語コース)
当時お世話になった、小木曾
理事長 / 校長 (中央左)、鶴尾先生
(右)、亀山先生 (左) と

インド・チェンナイ同窓会ニュース

I am very happy to inform that ABK AOTS DOSOKAI TAMILNADU CENTER has been selected as one the 5 (Five) institutions in India to Join the Japan Foundation SAKURA NETWORK. There 3 Universities and ourselves and MOSAI are the 5 to be selected by Japan Foundation.

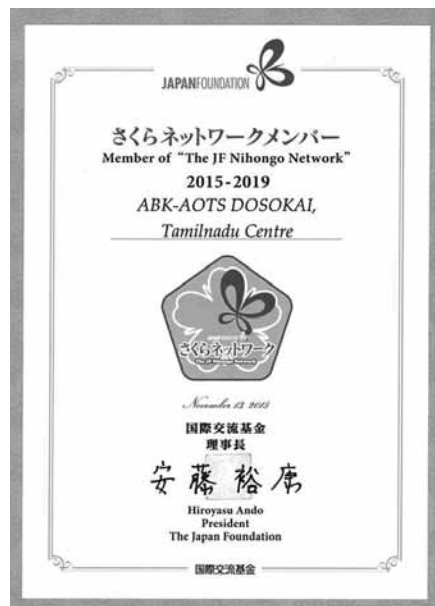
What is Japan Foundation SAKURA NETWORK:

The Japan Foundation has established "the JF Nihongo Network", a new system that links Japanese-language organizations throughout the world.

The institutions and organizations in supporting or cooperating relationship with the Foundation through its Japanese-language programs that work on projects that have a extensive ripple effects over an entire area or country in terms of enhancing the development of Japanese-language education will be the "core members" of the network. They are expected to contribute more to the establishment and development of Japanese-language education in that country.

Hence the name "Sakura Network", we hope that this network will develop and prosper in every part of the world, just like beautiful cherry blossoms.

The Japan Foundation will work together in cooperation with the member organizations of the "Sakura Network" to provide learning environment for those who want to learn Japanese-language, and further advance the quality of the Japanese-language education overseas.





奨学金情報

※ 奨学金情報は Japan Study Support のホームページよりご覧いただけます (<http://www.jpss.jp/ja/>)

■ 公益財団法人佐藤陽国際奨学財団 私立留学奨学生

●対象: ①バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、モルディブ、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナムから来日し、もんぶがくしょうしやかつ だいがく がくぶ だいがくいん ざいせき 文部科学省所轄の大学の学部または大学院に在籍する当該国の国籍を有する私費留学生

②国際理解と親善に関心を持ち、財団の交流会に必ず出席できる者 ③他の奨学支援団体等から奨学金に類する金品を受給していない者 (けんきゅうじょせいきん じゆきゅう ばあい じぜん 研究助成金などを受給している場合は事前に じむきょく と あ たいよしやうがくきん 事務局に問い合わせること。貸与奨学金については応募可) ④在留資格「留学: college student」を有する者 ⑤日本で就業しているおや がいないもの ⑥「博士」の学位を取得していないもの ⑦課程の修学期間が奨学金支給開始時 (2016年10月 または 2017年4月) より1年以上ある者 ⑧勉学・研究に支障のない日本語のうりよく ゆう もの とうざいだん しょうがくせい しゅうりやうご 能力を有する者 ⑨当財団の奨学生を終了後、どうそうせい とうざいだん こうりゅうかつどう せつぎよくてき まうりよく 同窓生として当財団の交流活動に積極的に協力で ける者 ⑩学部学生は、在籍している日本の大学 およ とうとうせんもんがくこうとう せいせきしょうめいしよ ていしゅつかのう もの 及び高等専門学校等の成績証明書が提出可能な者

●支給金額: (学部学生) 月額 15 万円、(大学いんせい げつがく ほか がっかいしゅつせきほじょきんせいど 院生) 月額 18 万円 (他に学会出席補助金制度あり)

●支給期間: ①2016年10月から2018年9月までの2年間 ②2017年4月から2019年3月までの2年間 (ただし、採用時の課程修了までの標準修業年限とする。)

●採用人数: 約 20 名

●応募方法: 2016年10月に在籍する大学のりゅうがくせい か まどぐち おうぼしやうい ざいせき だいがく 留学生課を窓口として、応募書類を募集期間内に りゅうがくせい か とうざいだんあて ゆうそう ていしゅつ 留学生課から当財団宛に郵送にて提出すること。

●応募受付: 8月18日(木)～8月24日(水) けししんゆうこう 消印有効

※ ただし、2016年10月 および 2017年4月 にゅうがく しんへんにゅうせい がくぶせい およ しょうしんがくせい だいがくいん 入学の新編入生 (学部生) 及び新入生 (大学院生) に限り、9月14日(水) まで受け付けます。

●実施団体・問合せ先:

〒153-0064 東京都目黒区下目黒 1-7-1

公益財団法人 佐藤陽国際奨学財団事務局

☎ 03-5487-2775

URL <http://www.sisf.or.jp>

■ 公益財団法人 渥美国際交流財団 奨学金

●対象：①日本以外の国籍を有し、日本の大学院博士課程に在籍し、当財団の奨学金支給期間に博士号を取得する見込みのある方。正規在籍年限を超えたために、あるいは、海外の大学院より博士号を取得するために、研究員等として日本の大学院に在籍する方も含まれます。

②渥美奨学金支給期間、所属する大学院研究科(研究室)と居住地が、関東地方(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県・栃木県・群馬県)にある方。③国際理解と親善に関心を持ち、当財団の交流活動に積極的に参加する意思のある方。④日本語が堪能な方(応募書類と面接は全て日本語だけです)。⑤渥美奨学金の支給期間に、正規の職(常勤職)に就いたり、他の奨学金を受ける予定のない方。(当財団は常勤の方への支給、および月額5万円以上の他の奨学金との重複支給は認めません。)

●支給金額：月額20万円

●支給期間：2017年4月～2018年3月、

または2017年9月～2018年8月の1年間(開始月については相談に応じます)

●採用人数：12名(内2名は海外の大学院より博士号を取得するために日本で研究する方を優先)

●応募方法：2016年7月以降、各大学院の留学生奨学金担当課または当財団事務局まで、募集要項と申込書を請求する。また、財団のホームページからもダウンロード可。

●応募受付：2016年9月1日(木)より9月30日(金) *最終日午後5時以後に財団事務局に届いた申込書は受理しません。

●実施団体・問合せ先：

〒112-0014 東京都文京区関口3-5-8

渥美国際交流財団事務局

Tel 03-3943-7612

Fax 03-3943-1512

E-mail aisf-office@aisf.or.jp

URL <http://www.aisf.or.jp>

■ 公益財団法人 NEC C&C 財団 外国人研究員助成

●対象：①助成開始時(2017年4月または2017年10月)に日本国内の大学院博士後期課程に在学中のこと。②外国人で、C&C分野およびその関連技術※の研究に携わっている研究者であること(原則として40歳以下)。

③研究内容がすぐれていること。④経済的必要性が高いこと。

(※C&C分野とは、情報処理技術、通信技術、電子デバイス技術およびこれらの技術の融合し

た技術分野をいう。関連技術とは、C&C分野の応用技術全般を含む。)

●助成金額：月額12万5千円

●助成対象期間：2017年4月または2017年10月より1年間

●支給期間：最長1年まで

●応募方法：実施団体に直接応募する(必要書類は財団URLを参照)

●応募締切：2016年9月30日(金) 必着

●実施団体・問合せ先:

公益財団法人 NEC C&C 財団 事務局

Tel 03-3457-7711

Fax 03-3798-7818

e-mail gaikoku@candc.or.jp URL

URL http://www.candc.or.jp

イベント情報

■第9回 ネパール フェスティバル

ネパールフェスティバルは、ネパールの食、物、文化、観光などネパールの魅力が体感できる文化交流イベント。会場では、ネパール料理やドリンク、バザールをはじめ、歌手による音楽ライブやネパールの伝統舞踊、ネパール楽器の生演奏、パレードなどが楽しめます。

日時: 8月6日(土)、7日(日) 10:00~19:00

場所: 代々木公園(東京都渋谷区・JR「原宿」駅徒歩3分) 入場無料

主催: ネパールフェスティバル2016実行委員会

<http://www.nepalfestivaljapan.com/ja/>

MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2016年4月

正会員

(3口)

加倉井 弘行 豊島区

(2口)

清水 勇治/泰代 高崎市

柳瀬修三 バンコク

林 均 横浜市

(1口)

堤井 信力 横浜市

高橋 作太郎 静岡市

田中 利恵子 東村山市

斎藤 伸子 豊橋市

坪井 健 横浜市

中村 尚司 京都市

田中 武雄/多美子

坂詰 貴司

来山 文泰

出澤 正徳

酒井 杏郎

大友 恭子

奥山 義夫

石川 清子

松本 誠一

飯沼 英郎

竹田 肇/和子

国土館大学

染谷 公久

馬杉 栄一

菊地 絵里奈

愛知淑徳大学

小原 正敏

我孫子市

船橋市

文京区

鶴ヶ島市

渋谷区

横浜市

町田

渋谷区

文京区

鎌倉市

中野区

世田谷区

坂東市

札幌市

葛飾区

長久手市

土浦市

松浦 秀嗣

増岡 信男

国分寺市

流山市

2016年5月

正会員

(1口)

関 正昭

東京都太田記念館

岩井 秀明

山口 誠

平峯 克

小野寺 武夫

伊藤 源之

鹿児島市

杉並区

川越市

吾妻郡

川崎市

国分寺市

東久留米市

ご寄附

伊佐 玲子

下都賀郡

皆様の暖かい御支援に感謝申し上げます

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人です。財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：公益財団法人アジア学生文化協会
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舎の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円
賛助会員 1口 5万円
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（十税）でお送りしています。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税を負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

おかげさまで、当財団は2014年4月1日に公益財団法人に移行しました。これまでご支援いただきました皆様には大変ご迷惑をおかけしていましたが、これにより会費並びに寄附金は税制上の優遇措置の対象となります。今後とも、皆様のご支援の下、これまでと同様留学生宿舎の運営、留学生への情報提供、同窓会活動等の活動を通じ、アジアの青年の育成と友好親善のために微力を尽くす所存です。引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

後 記

本誌の本年2・3月号の後記に、当財団創設者穂積五一初代理事長夫人の文子様が長年本郷の新星学寮に隣接するご自宅でレッスンに使われていたピアノが、長男一成様のご遺族のご厚意で、リニューアルされABKにご寄贈されたことを書いたところ、その後に文子夫人とピアノにまつわるお話をいくつかいただきました。そこで、文子夫人が好んで使われてきたホルダーピアノと文子夫人についてどなたかにお話を伺えないかと探し求めたところ、元新星学寮寮生の小田中聡樹様（東北大学名誉教授）に辿り着き、今回の「ホルダーと穂積文子先生のこと」の一文をお寄せいただくことになりました。（F）

本文にある「インド・チェンナイ同窓会ニュース」は、同窓会創設者で現会長のRanganathan氏からの連絡で、大変名誉なことだと全身に喜びがあふれる文面が送られてきました。今年、同窓会の日本語教育が、長年の活動実績が認められ、国際交流基金（JF）が世界各地の日本語教育機関との連携を通じて進める日本語ネットワークの構築の一端を担う「JF日本語ネットワーク」（通称、さくらネットワーク）のメンバーの認定を受けた。インドでは現在ABK-AOTS同窓会タミルナド センター他、文部省留学生協会、他3大学の計5団体がメンバーで、大変光栄なことだとの連絡です。チェンナイ同窓会の日本語は、Ranganathan氏が1972年ABK同窓会の研修生として来日し、1973年に帰国後同窓会センターを立上げ、1974年に8名の生徒から日本語を教え始めたところに遡ります。現在は、各種レベルの日本語を1000名近い人が学んでいます。（F）

アジアの友 2016年 6・7月号

2016年7月20日発行（通刊第521号）

年間購読（送料共）3,000円＋税 1部 500円＋税

発行人 小木曾 友

編集 アジアの友編集部

発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13（☎113-8642）

電話番号：03-3946-4121

ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754

E-mail: tomo@abk.or.jp

ホームページ：(<http://www.abk.or.jp/>)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: <http://www.abk.or.jp/>

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話または巻末の振替用紙にてお願いいたします。

